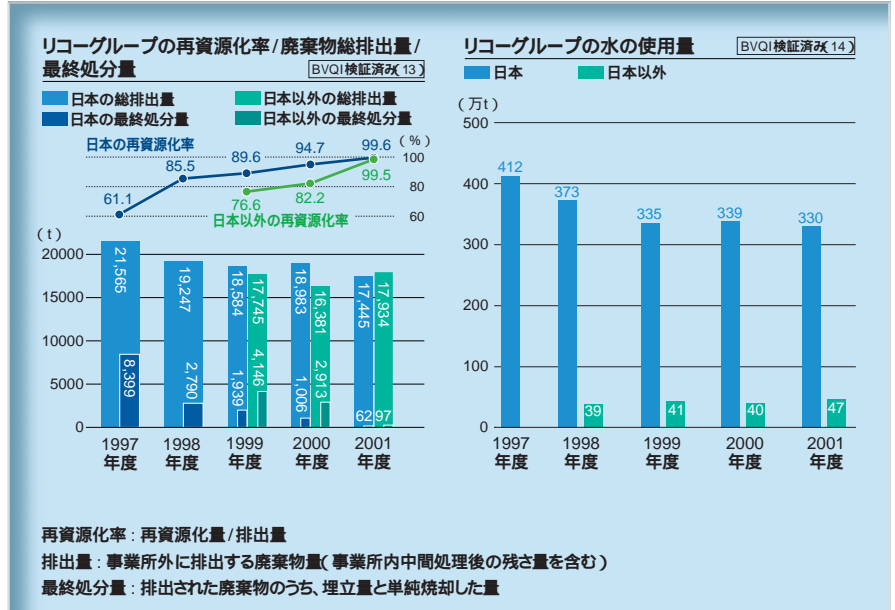


生産(ごみゼロ)

リコーグループは、
全世界の生産系事業所で
ごみゼロを達成しました。

リコーグループは、資源の有効活用、生産ラインの効率化、廃棄物処理費の削減、社員の意識改革を通じた企業体質の改善など、環境経営の一環としてごみゼロを推進してきました。2001年9月にイギリスのリコーUKプロダクツが、また2002年3月には中国のRAI(Ricoh Asia Industry)および台湾リコー*1が、ごみゼロを達成しました。これにより、リコーグループは日本、米州、欧州、中華種の全生産系事業所*2でごみゼロを達成したことになります。また日本のリコーでは、非生産系事業所も、2000年度の東京・青山本社事務所などに続き、2001年度は品川システムセンター、銀座、戸田、新横浜の各事業所がごみゼロを達成しました。サービス会社でも、46拠点*3、販売会社では2拠点*4でごみゼロを達成しています。2002年度以降は、ごみゼロのノウハウをお客様に提供し、社会全体の環境負荷削減に貢献すると共に、さらなる環境経営を推進していきます。

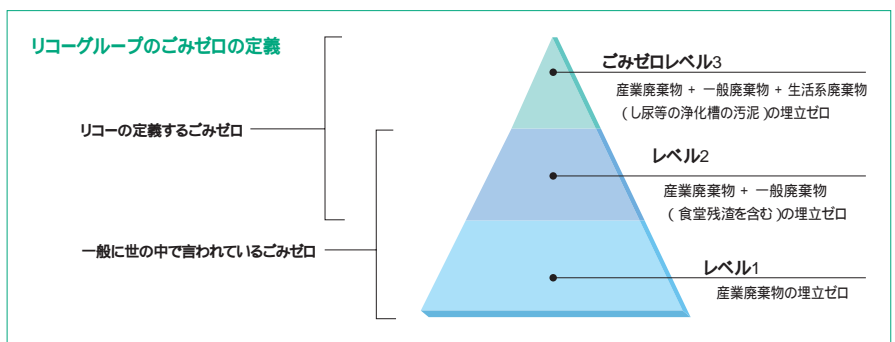
*1 台湾は島内にメッキ汚泥再資源化インフラがないため、メッキ汚泥をごみゼロの対象から除外しています(メッキ汚泥は台湾政府指定の処理業者で遮断型埋立処理されています)。
*2 生産系事業所とは、日本種のリコー生産系事業所と、日本、米州、欧州、中華の4種においてリコーが議決権の50%超を所有する生産子会社をいいます。なお、アジア・パシフィック種には生産子会社はありません。
*3 46ページを参照。
*4 42ページを参照。



リコーグループのごみゼロ

リコーグループは、ごみゼロ(再資源化率100%・埋立ごみゼロ)を、3つのレベルに分類しています。一般にごみゼロと言え、産業廃棄物をゼロにすること(レベル1)を意味しますが、リコーグループのごみゼロは、産業廃棄物だけでなく一般廃

棄物(レベル2)や、さらに進んで、し尿など浄化槽の汚泥といった生活系廃棄物もゼロにすること(レベル3)を意味します。また、単純焼却処分は廃棄のための手段とみなし、熱エネルギー回収による再資源化を図るなど、資源の完全循環を目指して活動を行っています。



アメリカのREI(Ricoh Electronics, Inc.)ジョージア工場のごみゼロ推進スタッフと活動推進のためのマスコット「ゼロヒーロー」。REIは2001年3月ごみゼロを達成しました。



メキシコのRIM(Ricoh Industrial de Mexico)のごみゼロ推進スタッフ。RIMは2001年3月、ごみゼロを達成しました。

日本 極

使用済み製品の100%再資源化

OA機器、時計、水道メーターやガスメーターを製造しているリコーエレメックスでは、きめ細かな分解・分別を行うことにより、回収した使用済み水道メーターの100%再資源化を実現しました。今後は、ガスメーターのリサイクル対応設計なども進め、より高度な再資源化を目指して行きます。

半導体工場(やしろ)の環境会計

やしろ工場では、半導体のエッチング工程に使用するフッ酸をリサイクルするために2001年度、「フッ酸リサイクルシステム」を導入しました。また、インバータ制御システムなどを合わせて導入し、大幅な省エネとコストダウンにも貢献していることが、以下のセグメント環境会計から明らかになりました。

半導体工場(やしろ)の環境保全コスト対効果予測(セグメント環境会計)

金額単位：百万円

省エネ・省資源 対策項目	コスト		効果				EI値 (t/億円) (CO ₂)
	投資額	メンテナンスコスト	経済効果		環境保全効果		
インバータ制御システム	131.5	1.5	177.5	100.0	CO ₂ 削減量(t)	5,762	3,807.8 (CO ₂)
フッ酸リサイクル	120.0	33.5	97.8		廃棄物削減量(t)	1,500	
ろ過装置	26.5	5.6	4.6		148		
フリークーリング	25.8	0.6	27.1		904		
合計	303.8	41.2	307.0	100.0	13,137	1,500	

効果に関しては装置の法定償却期間の積み上げで金額を算出。

欧州 極

リコーUKプロダクツ

社員の意識を啓発するために、個人や部門の評価に「環境」の項目を取り入れたり、構内にリサイクルセンターを開設し、不良品を分解して再使用するなど、ごみの発生

そのものを削減し、活動のレベルアップを図っています。また、近隣の企業や学校に対して、ごみの管理やリサイクル体制の構築を支援するなど、地域の環境保全活動のリーダーシップも担っています。



リコーUKプロダクツのごみゼロ推進スタッフ



地域の環境支援活動スタッフ

洗浄工程対策の環境会計

リコーインダストリーフランスは2000年度、感熱紙の生産ラインの洗浄を、水洗浄から空気洗浄を中心にした方式に変更しました。また、蒸気回収による水のリサイクルなどを合わせて行い、年間25,353 m³の水使用量を43.4%削減すると共に、排水の処理費を節約することに成功しました。

洗浄工程対策(リコーインダストリーフランス)の環境保全コスト対効果実績(セグメント環境会計) 金額単位：百万円

コスト			効果				EI値 (m ³ /億円) (t/億円)
コスト項目	主なコスト	金額	経済効果		環境保全効果		
事業エリア内 コスト	投資額	34.8	削減項目	金額	削減項目	量	62,072 (用水)
	メンテナンスコスト	0.0	用水コスト削減	1.6	用水削減量	21,601(m ³)	17,486 (廃棄物)
			廃棄物処理費削減	98.2	廃棄物削減量	6,085(t)	

効果は99年度から3年間の積み上げで金額を算出。

中華 極

中国・RAIのごみゼロ

社員の環境意識や生産性の向上、働きやすい職場づくりなどの一環として、ごみゼロ活動に取り組んだため、ごみゼロと同時に「元気のある職場づくり」が実現できました。社内で使用する複写機やプリンターのトナーボトルの「リサイクルショップ」を開店したり、BOD*削減のために排水浄化設備を導入する一方、その大きな原因が社員食堂の食べ残しであることが判ったため、メニューの見直しも図っています。

* BOD(Biochemical Oxygen Demand):生物化学的酸素要求量。川や湖の水の汚れを測る尺度のひとつで、水中の微生物が水の汚れを分解する過程で使われる酸素の量。



RAIのごみゼロ推進スタッフ

台湾リコーのごみゼロ

2001年1月、ごみを減らす運動と分別の徹底を同時にスタートさせました。社員が自主的なリサイクルルートを探すことにより、ごみの分別は17種類から35種類に増え、レベルの高いリサイクルが可能になりました。



台湾リコーのごみゼロ推進スタッフ